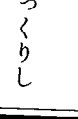
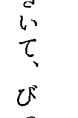
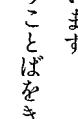
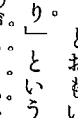
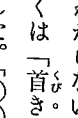
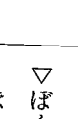
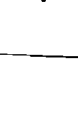
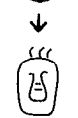


首

三年
 筆順 ヌ ヌ ヌ 首首
 オン シュ
 フン くび

成り立ち



かおのまん中にある「はな(自)」と、あたまのてっぺんをあらわした「ム」とをくみあわせたもので、「あたま」をあらわした字です。「くび」といいます。

首は「首都」「首相」などのじゆくごで明らかかなように「頭」のいみの字です。また、「頭」とおなじいみの字で、「頭首」というじゆくごもあります。

むかし、せんそうで、てきをたおすと、そのしょうこに「首」をきりとりました。それで、きりとるぶぶんをやはり「首」というようになりました。「首すじ」というつかいかたがこれです。

「首筋」「首飾り」は、正しくは「頸筋」「頸飾り」で、「頸」が「くび」をあらわした字である。」

使い方

▽おかあさんは、おふろに入ると、いつも、「首すじをよくあらいなさい。いつも、まっくろけなんだから」といいます。首すじなんて、見えないから、きたなくてもわからない、とおもいます。

▽ぼくは「首きり」ということをきいて、びつくりしました。「〇〇がいしゃでは、二十人も首をきられた」というので、ころされたのかとおもったのです。そうしたら、おとうさんが、わらいながら、「首をきられた、というのは、かいしやをやめさせられたということだよ」と、おしえてくれました。ぼくは、ほっとしました。

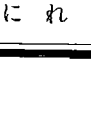
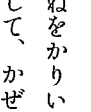
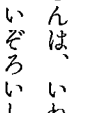
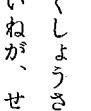
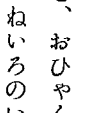
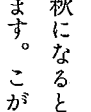
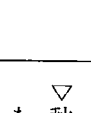
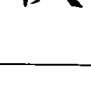
熟語例

- ▽首尾(頭と尾。はじめとおわりのこと、また、はじめからおわりまで、といういみにつかいます。「首尾一貫している」といえば、はじめからおわりまで、すじがとおっている、といういみになります。)
- ▽首位(頭の地位。いちばん、といういみです。)
- ▽首領(お頭。なかまで、いちばん上に立つ人。「山ぞく首領」などといいます。)

秋

三年
 筆順 ヌ ニ 和秋
 オン シュウ
 フン あき

成り立ち



「いね」のかたちをあらわし、「いね」のいみをあらわした「禾」と、「熟する」いみをあらわした「火」とをくみあわせた字で、「いねの熟するさせつ」「あき」をあらわしたものです。「火」は「烈火」とよばれ、火のいみをあらわしたものです。

また、「あき」は、さくもつがみのり、それを取り入れる、一年でいちばんたいせつな季節なので、だいひょうして「年」といういみにつかわれます。

使い方

▽わたしは秋がすきです。夏のきびしいあつさがやわらいで、すずしいかぜがふき、木々の葉は、赤と金のいろにかがやきます。なんだか、こころが、ほっとやすらぐさせつです。

▽秋になると、おひやくしようさんは、いねをかりいれます。こがねいろのいねが、せいぞろいして、かぜになびくようすは、とてもきれいです。かっしてしまうのが、おしいようなきがします。

熟語例

- ▽立秋(秋が立つ、ということ、こよみの上で、秋がはじまるとされる日)
- ▽秋分(秋が、かなりふかまって、昼と夜のながさがちようどおなじになった日。おひがんの中日)
- ▽中秋(むかしのこよみで、秋のちようどまん中の日である八月十五日のこと。「中秋の名月」などといいます。)
- ▽春秋(春と秋、ということから、一年のいみ。また年月のことをいいます。)